

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立番城小学校

1 自己評価書

教育目標 自他を大切にし、ともに考え解決していく児童を育てる					
基本方針 ○ 家庭・地域とともにある学校づくりに努める ○ 児童の自尊感情・自己有用感の醸成に努める					
本年度重点目標 1 社会総がかりで取り組む教育の推進 2 確かな学力を育てる教育の推進 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 安全・安心な教育環境の整備 5 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用 各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成	A	A
			・具体的な対策の実施	A	
	②	授業改善 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実 家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	A	B
			・保護者アンケート	A	
			・児童生徒アンケート	B	
	④	読書活動の充実 読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	C
			・保護者アンケート	C	
・児童生徒アンケート			A		
⑤	ふるさと学習及びESDの推進 社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	C	C	
		・保護者アンケート	D		
		・児童生徒アンケート	B		
<p>(成果と課題)</p> <p>①学校全体の学力向上に向け、学力向上推進主任が中心となって各調査を分析したり、取組の方向性を示したりしたことで、組織的に取り組むことができています。</p> <p>④読書については、全校で朝読書を行ったり、各学級で授業と関連させたり、独自の取組を行ったりすることで、児童の評価は高い。</p> <p>⑤一部の学年ではあるが、社会科や総合的な学習の時間を通して、社会や地域の課題解決に向けた学習や地域に対する誇り・愛着を高めた学習を行うことができた。</p> <p>②児童の学力向上を目標に、授業改善やICTの活用を行っているが、基礎的・基本的な知識・技能の定着が不十分な児童も多く、学力の2極化が見られる。授業内で対話的な学習活動を行う時間の確保が難しい。また、対話活動による児童の思考の深まりも少ない。</p> <p>③保護者から、宿題の量や内容、質についての改善要望があった。</p> <p>(改善策等)</p> <p>②児童の基礎的・基本的な知識・技能の定着に向け、ICT機器の活用し、状況に応じて最適な学習アプリを活用することで、児童の学習の個別最適化をより図る。また、主体的な学習に向けて、学習帳やドリル等の学習教材についても検討する。対話的な学習については、対話の必要性のある授業展開、時間配分等を加味した授業改善を行うとともに、児童に対話を深めるための知識・技能等のスキルを身に付けさせる。</p> <p>③学期末に保護者アンケートを実施し、宿題の量や頻度等について、意見を聞き、来年度の参考とする。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	C	
			・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成 児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	③	関係機関との連携 スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート	A	B
			・児童生徒アンケート	B	
			・保護者アンケート	C	
	④	自己肯定感等 自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	A	B
・児童アンケート			B		
・教師アンケート			A		
			・児童アンケート	B	

<p>(成果と課題)</p> <p>○生徒指導全般について、生徒指導主事を中心として教職員の連携や情報の共通理解が図られ、組織的に対応することができた。各学級でも、仲間づくりやいじめ・不登校の防止に向けて工夫した取組が行われている。</p> <p>④昨年度はC評価だった児童の自己肯定感や有用感が今年度は前期・後期ともにB評価となった。学級担任を中心とした声掛けや学級の取組の成果が表れている。</p> <p>①②児童・保護者の規範意識や登校意欲に差異があるため、個に応じて対応することが難しい場合がある。保護者から、子どもとの対話や相談環境についての改善要望があった。</p> <p>②登校意欲の低い児童に対応するための人員が足りないときがある。</p> <p>③保護者の評価が低い。関係諸機関や相談先の周知が不十分である。</p> <p>(改善策等)</p> <p>①②児童や保護者との対話から、よりいっそう児童や保護者の気持ちに寄り添いつつ、丁寧な対応を行う。児童に対しては、叱るだけではなく問い掛ける指導を行い、納得感や自己決定感を持たせつつ、変容や成長を促す。簡単ではないが、厳しさと優しさのバランスを取りながら、粘り強く繰り返し指導を行う。</p> <p>③関係諸機関や相談先の認知を進めるために、学校だよりや関係諸機関のチラシなどを活用し、周知を進める。</p>

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C
	② 働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。(枠を移動しました。)	・教師アンケート	A	A
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
		教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
		(成果と課題)			
		①仕事の優先順位を考えながら、効率よく業務をこなそうとしている職員が多い。			
		②若手、ベテランを問わず、相談しやすい雰囲気ができおり、働きやすい職場となっている。			
		③スクールサポートスタッフや地域学校協働活動推進員、学校教育活動支援員等のサポートが、学級担任の負担軽減につながっている。			
		①時間外勤務を減らそうとする意識はあるが、月80時間を超える職員がいる。			
		②課外活動の時間が勤務時間を超えているため、時間設定に課題がある。しかし、課外活動の時間と指導内容のバランスにも課題があり、活動時間を勤務時間内に終えるようにしたいが、練習の質が下がったり、練習量が全体的に不足してしまったりする可能性があることに不安を持っている職員もいる。			
		(改善策等)			
		①児童の下校を早める日を計画的に設定し、児童の学習活動を止めずに、放課後の業務時間を確保したり、より効率的な働き方、仕事の割り切り方を教職員間で共有し、自分の働き方と合わせながら実践する。			
		②短時間でも充実した指導ができるよう、指導力の向上と練習効率を考えた練習計画を検討する。			
		③教職員の声を取り入れ、小さなことでも目に見える業務改善・負担軽減を進めるとともに、ICTやAIを積極的に活用していく。			

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	B	B
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A C B	
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	
	③ 来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A B A	A
		(成果と課題)			
		②ホームページは、ほぼ毎日更新され、積極的な情報発信ができている。保護者の評価も高い。			
		③教職員一同、来客・電話対応は丁寧に行っている。前期の保護者評価がC(78.6%)だったのに対し後期はB(80.1%)の微増となった。昨年度の同質問では、C(75.5%)だったので保護者の評価が上がってきている。			
		①教職員や保護者に対して、学校運営協議会での協議内容や活動状況を、書面や口頭で必要に応じて報告をしているが、周知不足の点があった。			
		(改善策等)			
		①学校運営協議会は、勤務時間外に行っているため、管理職が中心となって参加をしているが、議題の内容に応じて主任が参加したり、希望する教員を参加させたりする。			
		②令和3年度の評価がAだったので、保護者のニーズを取り入れつつ、より誠意を持って丁寧な対応に取り組んでいく。			

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満